

会 議 録

会 議 名 称	登米市総合計画審議会 第1回つくる分科会
開 催 日 時	平成26年12月1日(月) 午後3時15分開会 午後4時30分閉会
開 催 場 所	登米市迫公民館 研修室
議長(座長)の氏名	阿部泰彦 委員(一般社団法人 登米市観光物産協会会長)
出席者(委員)の氏名	阿部泰彦 委員(一般社団法人登米市観光物産協会会長) 今野秀俊 委員(登米地域商工会連絡協議会会長)【途中退席】 芳賀 稔 委員(宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部長) 以上3人
欠席者(委員)の氏名	佐々木修 委員(みやぎ登米農業協同組合 総務部長) 以上1人
事務局職員職氏名	(説明員) 登米市総合計画策定連絡調整会議つくる部門会議 副部門長 産業経済部参事兼農林政策課長 岩淵俊明 【遅参】 登米市総合計画ワーキンググループつくる部会 部会長 産業経済部農林政策課 課長補佐(総合調整担当) 三浦洋一 (事務局) 企画部企画政策課 課長補佐兼企画政策係長 新田公和 以上3人
議 題	【協議事項】 (1) 第二次登米市総合計画基本計画(案)について
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 経 過	別添のとおり

会議資料	■資料 2 第二次登米市総合計画基本計画（案）
発言者	議題・発言・結果
座長	■協議事項 第二次登米市総合計画基本計画（案） ○つくる分科会では、『基本計画（案）P47～P58 基本政策3 地域資源を活かし魅力ある元気な産業を「つくる」まちづくり』を協議する。
事務局	説明
座長	○今野委員より途中退席の申し出があるので「商業の振興」から協議する。ご意見をいただきたい。
委員	○工業は活力あるが、商業は大変厳しい。構造自体が変わってきている。これまではメーカーから卸問屋を経由して小売だったが、今はメーカーから直に大型商店となり、卸問屋が無くなって小売商店の仕入れ先もない状況。例えば、指定管理者制度などを活用して、道の駅のような機能と公民館機能などを含めた一体的な商業施設があれば、商業振興になるのではないか。このままでは活性化といっても衰退する一方だ。
座長	○空き店舗対策とあるが、佐沼などは復興需要で殆どない。必要なのは、市街地の商店街の活性化計画が必要であり、合併時から全く手つかずの状態だ。空き家や家屋取壊の空き地があるので、商業振興のためにも、人口を集中させる街なか居住をいかに進めていくかの施策が重要だ。
委員	○資金融資などは良い施策だが、現実はその前の段階の施策が必要だ。
委員	○新しい事、不慣れな事への挑戦を後押しする施策が大切で、起業する方への支援策も必要。
事務局	○別の個別政策「起業・創業」に施策をまとめている。
説明員	○起業・創業については、今年度から農業だけでなく商業と工業も含めて対象にした分野横断的なビジネスチャンス事業を拡充して支援している。商工業者向けに別途チラシも配布する。起業者の育成を目的とした事業も展開している。
委員	○国の規制緩和で商業者が減っている。小規模企業振興基本法などの法律が今年施行されたので支援を期待するが、時すでに遅きの感もある。市では新たな起業家・創業者への支援に取り組んで欲しい。
委員	○市のこれまでの10年間で商業対策はほとんど無かったに等しいが、今後はもっと取り組んで欲しい。
委員	○市では、企業誘致や6次産業化、起業支援は進んでいるが、商業政策は全くなっていない。

座長	○商業政策に力を入れて、街なかにかにいかにして人を住ませるかが課題。行政が主導して、街なか再開発をするくらい、もう少し強く取り組まないと商業振興は厳しい。
座長	○「林業の振興」を協議する。ご意見をいただきたい。
委員	○林業は大変厳しい。組合で森林を管理している現状。林業の計画は、良く記載しているが、絵に描いた餅。施策をしても林業者の役に立っていない。約 80 年/10 a で 10～15 万円の手取りにしかない。作業員の賃金にしかない。市内 3 森林組合で、林業所得ある組合員は 110 人程度しかいない。若い担い手がいないから活力がない。少しでも利益の残る施策が必要。国の施策とは別の角度での市の支援が必要。木を切った後に育林し 10 年間下刈り管理するのは大変で、そのままの山林が多い。育林を計画的にしていかないと将来的に山が無くなり、間伐や枝刈りなどの仕事もなくなる。
説明員	○抜本的には、材料の単価が上がれば良い循環になり解決するが、なかなか難しい現状である。林業者は市内に 6 人くらい新しい担い手がいる。施策的にはオフセットクレジットという新しい価値の考え方により財源を確保し、山林管理に充てる。森林の好循環を図る。作業効率を上げるため、森林施業の高機能機械の補助も実施しており、組合と一緒に機械オペレータの若い人材を育てたい。
座長	○農業、商工業あるが、その中でも林業の担い手不足が一番深刻だ。
委員	○県に金がないので、国と市が財源手当。登米市の林業に対する理解度は高いと認識している。登米森林組合で 100 年の森計画がある。木を植えることから始めないと、将来仕事が生まれない。
説明員	○森林整備計画を見直しながら、長く一定に仕事が出るよう施策をしている。
委員	○自由貿易の影響を最初に受けたのが林業である。丸太ではなく製品で輸入されるようになり、安価な輸入材に押されてきた。
説明員	○市内産材を半分以上活用して市内で新築する場合に 30 万円から 50 万円の補助金を交付している。予算は 2 千万円。森林組合等の生産者から製材業者、販売業者、大工さんまで連携して有効に活用出来る仕組みになっている。
委員	○県内で 16 の森林組織あるが登米市の支援策が一番良い。災害公営住宅建設にも市内産材を活用していただき、市内産材活用で県から表彰された。
委員	○森林組合職員への経理講習会等の教育支援も市に期待したい。現業の職員が今は事務を執っており、専門の事務職員がいない現状である。
座長	○「工業の振興及び雇用創出」を協議する。ご意見をいただきたい。
委員	○若い人の U ターン・ I ターン希望があっても、働く場がなければだめだ。企業誘致は、人口減少対策としても重要な施策で、今は自動車関連産業の誘致が一番現実的である。

委員	○地域審議会の意見で米山高校跡地活用に住宅分譲地の意見もあったが、結局は雇用の場がないと住む人も来ない。
座長	○市の企業誘致は、長沼工業団地の自動車関連企業の立地など一定の成果が見られる。栗原市でも工業団地造成中なので、引き続き登米市も負けないで頑張っていたきたい。
座長	○「観光の振興」を協議する。ご意見をいただきたい。
座長	○観光物産協会としても、観光物産振興に、まだまだ頑張らなければならない。特に観光が一番、交流人口の増加に寄与するので、市と一緒に観光振興を進めていきたい。
座長	○「農業の振興」を協議する。ご意見をいただきたい。
委員	○合併から1万人減っているが、人口減少の歯止め対策が目に見えない。特に農業だが、今年の米価では所得がでない。JAの努力も足りない。先程の商店街の空洞化も今に始まったことではない。抜本的な取組がなかったからではないか。本来当たり前の支援が動いていなかったと思う。行政が主導性をもって対応すれば、新しい芽が出てくる。分野毎に力強く後押しする政策プロジェクトのようなものを作ることが大事。
委員	○国の施策は大規模化。TPPなど農業を取り巻く情勢は厳しい。農家の多くは今も家族経営。現状の家族経営から国の進める大規模法人化へは難しいのではないかと思う。また、JAには、もう少し現場重視で農家と接点を持った指導をしてほしい。
座長	○市では産業経済部職員の7割の力を農業に充てている。だから、商業・工業・林業が手薄になる。
委員	○農業が保護されているのは食料需給者だから。
委員	○コメだけではだめだ。発想の転換が必要。農業振興は、市だけでなく、やはりJAと一緒に担うべき部分大きい。
説明員	○国では大規模化を進めているが、現場はなかなか難しい。しかし、少しずつ就業シフトしている現状もある。抜本的な農業施策は難しいが、できる限り取り組みを進めていく必要はある。
委員	○佐々木委員がいないので、農業振興の部分だけは次回に引き続き協議したらどうか。
座長	○「農業の振興」を引き続き協議するため、分科会は次回も開催する。次回の審議会の時間前に分科会を開催する予定としたいが、本日欠席の佐々木委員が出席可能な日程で調整する。
座長	○本日の分科会は以上で閉会とする。